

“転勤・転居の思い出”

石原 靖造

世の中コロナ禍やプーチン暴挙に加え地震もあり、中々気分的に落ち着きませんが、今日は一時浮世を離れ、遠い昔に思いを巡らせて見たいと思います。

転勤は大阪から東京—豪州メルボルン—シドニー—東京と4回ですが、転居は沢山あります。子供の頃の疎開に始まり、結婚当初の大阪羽衣—千葉南柏—豪州メルボルン—シドニー—東京練馬—千葉柏—大阪箕面—東京成城と10回あります。

小学4年生の時、父の在所である愛知県中島郡（稲沢市）に疎開しました。変な言葉をしゃべる奴が来たと、よく苛められたのを覚えています。そんな折一学年上に並外れて体格の良い正義派ワンパクが居て、私を良く助けて呉れました。後で分かった事ですが、この正義派ワンパクこそプロ野球国鉄に入り、後に巨人で大活躍した金田正一投手でした。何時の日にか金田さんの前に進み出て、昔のお礼を言おうと思っていましたが、2019年10月帰らぬ人となられ、この夢は果せませんでした。

昭和43年待望の海外勤務が豪州メルボルンに決まりました。わくわくする反面、高校時代から苦手だった英語が通じるか心配でしたが、矢張り支店長から使い物にならんと下宿やら会話教室に通った苦労は今も忘れる事が出来ません。1年4ヵ月後にやっと家族を呼び寄せる事になりましたが、見知らぬ土地での英語での生活は家族にとっても大変でした。

長女は4月に小学校入学したばかりなのに早くも6月に転校です。メルボルンには日本人学校がありませんでしたので、いきなり現地の小学1年に入学させました。入学初日先生による紹介が終わり、皆が起立して“Good Morning”と挨拶しているのにポカンとしていたのを覚えています。弁当に皆がサンドイッチ持参しているのに、家内が作った海苔を巻いたおにぎりを持参しました。後で聞いた話ですが、Black Bomb（黒い爆弾）を食べていると皆がからかっていた様です。

子供は馴染むのが早いもので、小学4年の頃には2年下の妹と殆ど英語でしか

話をしなくなり、困ったなあと心配していましたら、日本人学校のあるシドニーへ転勤命令が出たのでやれやれと思いました。



<写真は建築途上のシドニーオペラハウスです。

昭和48年英国のエリザベス女王を迎えて竣工しました。>

昭和49年夏、私は6年半、家族は5年のオーストラリア生活を終え、東京へ帰る事になりましたが、予定していたマンションが年末にしか完成しない為、一旦練馬の社宅に入り、年末にやっと千葉県柏の新居に移る事が出来ました。

可愛そうに長女は6年間の小学生生活で4回転校し、最後の3ヵ月通っただけの小学校を卒業したのです。

私の豪州での仕事は日本向け小麦、グレインソルガム、オート麦等穀類と牛肉、羊肉等食肉の輸出で、苦勞もありましたが、自分を大きく成長させて呉れた6年半でした。唯、家族には色々と苦勞を掛けた事、心の中で感謝しています。

長女は小学校での英語を忘れないらしく、オリンピックのボランティアに参加したり、英会話教室のアルバイトもしていますから、少しは他人と異なる道を歩いているのかなと思っています。

平成20年平穩だった柏での生活は、次女が大阪で発病した為一変しました。看病の為、柏の家をその儘にし、家内と共に必要な物だけ運んで、大阪箕面での小さなマンション暮らしを余儀なくされました。テレビ、冷蔵庫、洗濯機等新た

に用意せざるを得ず、全く無駄な話でした。悪い事は重なるもので、23年6月家内が交通事故に遭って要介護者になってしまった為、階段のある柏の家には帰れなくなり、24年2月柏を引き払って長女の居る東京の成城に落ち着く事になりました。この4年間になんと千葉柏・大阪を60回位往復しています。

残念な事に、24年秋に次女は最期を、又家内はその後を追う様に3年後に最期を迎え全ては終わりました。

自分の生まれ故郷であり、育った土地でもある大阪で、何故この様な仕打ちを受けねばならぬのか、一時は悲しみに暮れた時もありましたが、今は、全ては運命であると自分に言い聞かせている処です。

最後になりますが、“引っ越し貧乏”という言葉をご存知と思います。どうも自分に当てはまる様な気がしています。ご存知成城の街は豪邸だらけですが、自分はマンションの小さな一室暮らし、これ全て神の定めた運命でしょうが、せめてここで最期を迎えられる様お願いしたいと思っています。

拙文にお付き合い頂き有難う御座いました。

令和4年3月22日

(完)